

景観まちづくりかわら版

浦添市景観まちづくり市民会議

発行日:平成 19 年1月5日発行
発行者:浦添市景観まちづくり事務局
(浦添市都市計画部美らまち推進室)
TEL:876-1234(内線 4061~4064)
FAX:879-7138
E-Mail:tyuramachi@8761234.jp

第7号

第7回浦添市景観まちづくり市民会議は、12月19日(火)に浦添市役所6階講堂で開催され、市民会議の委員をはじめ、都市計画課等の市の職員が参加しました。今回は、これでの検討を踏まえ、景観計画の理念・目標を含む計画骨子案の確認・了承を行うとともに、前回に引き続き「顔づくり(骨格レベル)」と「表情づくり(地区レベル)」の方針案を検証・補完を行いました。その主な内容を以下に紹介します

<協働の風景づくり方針(案)について>

- ・1. 市民・住民、2. 事業者(企業)、3. 行政の3つの項目に分かれているが、縦の項目の整理の仕方として、発見、行動、協働の流れがいいのでは。また、マネージメント(維持管理)も重要なキーワードである。／行政の役割として、市民間、企業間をつなぐだけでなく、企業と地域住民等、横の連携、つなぐ(コーディネート)イメージの方針がいいのでは。行政はあくまでもそのフロアアップ。／協働やパートナーシップのイメージとして、イギリスのグランドワークの仕組みがある。／「協働」ということも大切だが、まずは「自律」することが大切である。自分たちでルールをつくり、自分たちで管理・運営していくことが最終的な目標である。

<顔づくり(骨格レベル)について>

- ・顔づくり(骨格レベル)は、行政がリードしていくもの。例えば、ある道路をシンボルロードと位置づければ、シンボルのような景観づくりに取り組みやすく、さらに緑の軸線を含めると、緑の骨格を創出するような景観づくりができる。市(行政)としては、景観法を背景として、事業のグレードアップに取り組みやすい。

<表情づくり(地区レベル)について>

○伝統集落地区

- ・仲間地区には、以前は大きな木(屋敷内の樹木)等が多くあったが、管理が難しいため、伐採してしまう。地域の方に緑化を進める場合に大変苦労するので、地域全体で進めていくこと(共通認識をもつことも含めて)が大切。／いまある財産をどう保全・管理していくか。コミュニティによるマネージメント等。／地域住民の協働により管理していくことが今後は最も重要である。

○住宅市街地地区

- ・航空写真を見ると、国道58号とパイプラインの間の地域は一番緑が少ないため、「既成市街地の中の緑の創出」を入れた方がよい。／緑について、「保全」と「創出」は分けて考えるべき。／(3)の「住宅市街地の個性ある通り景観を創出する」(p7)の「個性」よりは、「住宅市街地の潤いある通り景観を創出する」や「豊かな緑を形成する」などの表現がいいのでは。

○区画整理地区・開発団地地区

- ・建物の壁面緑化しか書かれていない。住宅地側の壁面後退で歩道空間や緑地空間を確保する、という内容があってもいいのではないかな。／もう1つは、ボンエルフ道路の導入。歩行者空間が少ないところでの歩車共存道路の導入によって通過交通を抑制する。ハンプは音がうるさい等の問題があるので、イメージハンプで抑制するとか。／道路や区画割など整備されているが、十字路等は危険。歩車共存を項目として入れた方がよい。／「安全」や「潤い」を方針の表現にいて、実際の手段として、「歩車共存道路」や「コミュニティ道路」の導入としたらどうか。／浦添ニュータウン等の団地の共有空間として、「通り」があり、みんなでつくる通りのイメージが大切。交差点付近でのポケットパークの確保や広場のデザインも重要である。敷地内に庭があるので、個人の敷地から緑の演出が重要であり、通りの演出につながる。

○商業・業務地区

- ・「企業が主体となった～」というニュアンスを入れられないのか。／大型ショッピングセンター等、複合的な機能を兼ね備えているので、まちづくりとしての役割があり、表(景観)にでてくる。2つめに中心市街地の活性化といったこと、商業のなかで人が行き交い、賑わうなど、魅力をもたせる役割がある。

○工業・流通地区

- ・面積も大きいので、緑のことをもっと盛り込みたい。企業としては自分の敷地に緑を豊かにする責務があるだろう。西洲地域では協定や美らまちサポーター制度を活用している。／海に面しているので、船や飛行機から眺めや、北谷などの地域からもみえるところである。遠景であるが、非常に景観面で大きい。市のランドマークになったりする。屋根の色を変えるだけで変わってくる。

○跡地利用・新規開発地区

- ・表現として「検討」ではなく、「景観形成や緑等に配慮した跡地利用計画を促進する」といったほうがよい／注意しないといけないことは、景観資源(滑走路、海、樹木や御嶽・拝所等)がある。／キャンプキンザーのフェンスの活用。

○その他

- ・狭い道(スージー)を積極的に活用することで、地域のコミュニティや子供たちの成長に役にたつのではないかな。／西原集落は石垣がかなり残っている。文化課等とタイアップしていくやり方もあるのでは。／「組踊りの道」はとても良いアイディアと思う。